

教育実践研究発表会 発表テーマ等一覧

	校種等	氏名	キーワード	発表テーマ
				研究の背景、改善したい課題等
①	高等学校 マネジメント	西舘 智香子	地域連携・協働、 組織特性、 リーダーシップ	高等学校における学校運営協議会の在り方
				学校と地域の連携の重要性が指摘されている。県内高等学校における学校運営協議会の取組や成果への理解・共有の状況を明らかにし、地域連携・協働による学校の魅力化・特色化の推進や、教育活動充実に向けた学校運営協議会の在り方を検討する。
②	高等学校 化学	伊藤 颯希	日常生活、 生徒の課題価値	日常生活で見られる事象を意識した高等学校化学の授業づくり
				高校理科では、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び関心を高める観点から、日常生活や社会との関連が重視されている。そこで本研究では、日常生活で見られる事象を意識した授業が、生徒の課題価値や理解に及ぼす影響を調査することを目的とした。
③	小学校 マネジメント	土川 純子	道徳教育推進教師、 カリキュラム・マネジ メント	道徳教育を協働的に推進するカリキュラム・マネジメントの在り方 ～道徳教育推進教師を中心とした実践を通して～
				「道徳教育推進教師」を中心とした協働的な体制づくりに着目し、道徳教育を持続的かつ質的に向上させるカリキュラム・マネジメントの在り方を探究する。教職員間の連携や推進体制の構築における課題と可能性を明らかにする。
④	小学校 国語	高橋 舞	小学校国語科、 読むこと、 視覚化	絵を用いる学習活動を取り入れた小学校国語科教材「やまなし」の授業実践
				小学校国語科教材として長く扱われている宮沢賢治の作品「やまなし」は、作品の特質から読解が困難な教材である。絵や視覚化の学習活動を取り入れる手立てによって学習者がどれほど読み深めて学習することができるかを明らかにすることが本研究の目的である。
⑤	小学校 国語	伊東 しのぶ	問い、 主体的な学び、 深い学び	児童の「問い」を中心とした物語文教材の授業づくりに関する実践的研究
				「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善が求められている。児童の「問い」を中心とした物語文教材の授業を実践することが、主体的で深い学びに繋がるのか、学びのエンゲージメント理論を応用するなどして明らかにする。
⑥	小学校 生活科	太田 瑠美子	学習評価、 振り返りシート	小学校生活科における子どもの「気付き」の質を高めるための学習評価の在り方 —振り返りシートに着目して—
				子ども一人一人の「気付き」を表出し、思いや願いに沿った教師の手立てが可能になるような振り返りシートを検討し、学習評価が児童の気付きの質を高め、児童自身の活動の改善につながる学習評価のあり方について研究する。

⑦	小学校 復興教育	千葉 絵里香	復興教育、 教科横断的、 いきる	「いわての復興教育」の視点で捉え直す教科横断的な授業づくり ～小学校での実践を手がかりに～
				内陸・沿岸問わず取り組める復興教育の推進を目的として、「いわての復興教育」の教育的価値「いきる」に焦点を当て、教科と関連付けた復興教育の単元計画を作成し、実践する。実践により、児童の意識や行動に変容が見られるのかを検証する。
⑧	中学校 数学	高橋 規真	自律的、 問題発見・解決能力、 授業構想図	自律的な問題発見・解決能力を育成するための中学校数学の授業開発
				生徒が自ら課題を見出し、主体的に学ぶ力の育成が求められている。本研究では、生徒の自律的な問題発見・解決能力を育む教師の働きかけを明らかにする。また、授業構想図を基に、生徒の思考過程に応じた教師の介入の在り方を設計し、実践を通して検証する。
⑨	中学校 保健体育	川名 弘晃	武道「弓道」、 教育的効果	中学校武道における「弓道」の教育的効果に関する研究
				運動に苦手な意識をもつ生徒にとって弓道を行うことで得られる教育的効果を調査することを目的とした。運動有能感、形成的授業評価、単元を通じた生徒の振り返りから考察する。
⑩	中学校 保健体育	石川 百杜巴	球技、 発話	体育授業中の発話とゲームパフォーマンスの関係 —中学校1年生球技を対象として—
				球技授業において、ゲーム中に何をしゃべっているのかや位置・タイミング等を示す言葉を多く発すれば実際にゲームパフォーマンスが向上するのか明らかになっていない。そこで本研究では、生徒の発話とゲームパフォーマンスの関係を明らかにすることを目的とした。
⑪	中学校 マネジメント	藤澤 俊介	人口減少社会、 地域創造人材育成、 地域—学校間連携	人口減少社会における地域創造人材の育成に資する地域—学校間連携の在り方
				人口減少社会における地方創生を視野に入れた教育的展開を探っていく。CSと地域学校協働本部等の連携（本論ではCS+と定義）を通して、実践するための必要となる要素を先行研究から仮説を立て、実地調査で実際を探る。この工程から学校運営の在り方を提唱する。
⑫	特別支援学校 国語	水梨 弥夕	各教科等を合わせた 指導、 教科別の指導	各教科等を合わせた指導と教科別の指導を関連付けた授業づくりの要領 —単元構想シートを活用した中学部の実践から—
				知的障害特別支援学校中学部において、「各教科等を合わせた指導」と「教科別の指導」を各教科の内容を媒介として相互に関連づけるための授業づくり要領を開発し、それを基にした授業実践を行い、教育的効果を測定し検証する。
⑬	特別支援学校	五島 佑希菜	知的障害、 認知特性	知的障害のある児童に対する認知特性に着目した支援の検証
				知的障害のある児童への支援では、認知特性に応じた指導が重要である。しかし、重度の知的障害児では認知特性の把握が難しい。そこで、本研究では、認知特性を推定する方法を取り入れた支援を行い、その効果と有効性を検証することを目的とする。
⑭	特別支援学校	及川 洋	知的障害、 情報活用能力	知的障害特別支援学校における各教科等の資質・能力と情報活用能力の育成を両立する授業づくりの要領
				知的障害特別支援学校における各教科等の資質・能力と情報活用能力の関係を体系的に整理し、両者を両立的に育成する「授業づくりの要領」を明らかにする。また、要領を授業構想時に具現化するためのワークシート（EPS-SIL）を開発し、教育実践における有用性を検証する。